



関東地方を中心にした震度6弱以上の確率

幕張メッセ：84.5
東京ディズニーランド：82.5
東京スカイツリー：81.3
2020年五輪選手村予定地：81.0
横浜ランドマークタワー：76.1
浜岡原発：74.1
東海第二原発：71.2
成田空港：68.3 他



県は耐震化率を上げたり、避難を始められる人の割合を上げる目標を上げたりして、想定死者数半減を目指す。

神奈川県は、東日本大震災の教訓を反映した地震被害想定調査の結果を昨年3月、公表した。新たに評価対象に加えた天正型関東地震「M8.2」では、建物の倒壊や津波で3万1500人が死亡する想定としている。

関東の県庁所在地では、埼玉55%、千葉85%、東京47%、横浜81%と前回とほぼ同様の高い確率である。

建物の倒壊が始まるとされる震度6以上の確率では、太平洋側の南海トラフ巨大地震の周辺で、前回の14年度版に比べ最大2ポイント程度上がった。

政府の地震調査研究推進本部は6月10日、今後30年以内に強い地震に見舞われる確率を示す「全国地震動予測地図」の2016年度版を発表した。

震度6以上の確率81%!

横浜は30年以内に

政府予測16年度版 14年比最大2ポイント上昇

大地震確率 太平洋側で増!

「防災関連施設」バス見学会に参加して

74-3 相會 フミ



熊本地震などで関心が高まっている中で、防災関連施設への見学会。期待しながらの参加でした。

リニューアルされた横浜市防災センターを手始めに3拠点で様々な体験をしながら、新しい情報も沢山得られました。

地震の揺れ、煙の中を逃げる体験、一般家庭をイメージした部屋で何が起るかわからない状況の中で災害を体験し様々な気づきがありました。

災害発生2時間後をどう生き残るか、個々にタブレット端末を持ってクイズに答えながらの体験学習、新聞紙やレジ袋を使った紙食器やスリッパ作りなど、緊張と共に驚きの連続でした。

電気水ガスの供給が止まった時、或いは十分な供給がなされない時に活用出来るものは日常生活でも工「な観点からすることも大切なことです。私の所属する食糧班 防災V6でも出来るようなことが多々ありました。日々の生活を見直し取り入れることが出来るものはどんどん実践していかなければと思えました。

横浜の本屋さんで入手できなかった「東京防災」の本が購入できたことも一つの収穫でした。

1日3拠点と言いつ駆け足的な物でしたが、後日もっとゆとり体験したいと思っています。

今回のような行事に参加できたよまへの方々のご尽力に感謝申し上げます。

6月2日(木) 防災センターバス見学会に参加して

23-4 横井 時宏

災害発生、大丈夫?大丈夫じゃない?

今回「地震のシミュレーター」を経験した事がないという好奇心から市防災センターバス見学会に参加しました。

横浜市防災センターが何処に有るのか?どんな体験をするのか?何も解らないまま、楽しみ気分で防災センターへ入りました。

大都会における仮想地震発生時の映像が流れた瞬間、怖い!!「頭で考えている感覚」「テレビで見ている感覚」違う!!何これ!!そう思いながらもシアターを見終わった後、笑いながら「凄かったね」と。

その後、地震シミュレーターで「自宅、電車の中、高層ビルの中」映像を交えながら「震度3」を体験。しっかりと手すりに捕まる所があり「揺られ、縦揺れ」が来るのが分かっていても「凄く揺れにびっくり!!」実際にこれが突然遭遇したら自分はどうなるのだろう。

また、火災発生を想定し防災センターの人から初期消火訓練、ビル等からの逃げ方の説明を受け、煙を吸い込まないよう気をつけて歩いたにも拘らず「バーラのキツイ匂いを感じた」という事は煙を吸っていたという事実、生き残れないかも...

東北大地震「熊本地震」いろいろテレビ、新聞で報道され「可哀想だな」「天変だなぁ」と思い「義援金等の行動はしていても実際に身にかけていないから人ごと」でした。近い将来身近に発生するかも知れない大地震、人ごとではない。もし発生したら、公的支援を待つのではなく「自分の身は自分で守る」周りの人と協力し支援活動を実施する。必ずしもすべての防災グッズが必要でないかも知れないが、日頃から地震に対する備えと、3日間は自力で生き残る為の準備が必要、そんな事を考えさせられた1日でした。



そなエリア東京防災センター 実際の災害時、政府の災害本部となるオペレーションルーム

7 : 2 : 1
自助 : 共助 : 公助



防災ボランティア

防災ボランティア活動を下記のチームで行っています。一緒にやりませんか “会員募集中”

防火チーム、情報・通信・電気チーム、医療・介護チーム、食糧・物資チーム、防災資機材取扱チーム

連絡先 自治会館 784-4447

耐熱性ポリ袋を使って、「ご飯、カレー、」お茶の炊き込みご飯、デザートにプリンを作りました。レンジ通りではうまくいかず、教えてもらいながら作りましたが、カレーライスなど美味しく出来上がりました。

ポリ袋に材料を入れて、良く混ぜて、空気を抜いて口元を縛る。これを煮立ったお釜に入れて炊き上げる。これらの作業もそれぞれコツがあり、体験は大変貴重でした。皆さんもぜひ体験してみても如何でしょうか。



熊本地震の被災者の状況をニュースで見聞きしますと、本当に大変だろうなあ と心から思います。わが町関ヶ谷に於いても防災対策について各人が真剣に考える必要があるでしょう。関ヶ谷クラブは、物資 食料班チームの指導を受けて、非常時の食料作りを体験しました。

非常用炊き出しポリ袋体験記

関ヶ谷クラブ会長 笹目 良雄

災害発生時の「スマホ」活用術

21 - 10 土谷 捷三郎



我関ヶ谷自治会では災害時のあらゆる事態を想定し、防災ボランティアを中心に活動されています。各家庭では災害時に必要な備蓄物の準備もされていることと思いますが、何か起こったときやはり身近な人の安否確認が一番気になるころでしょう。災害時の連絡手段は普段から家族で話し合っておくべきですね。

その連絡手段の 1 つに携帯電話の新しい形スマートフォン(略してスマホ)を持つことを選択肢に入れてもいいと私は思っています。

災害時電話回線が混線し非常に繋がりにくくなってしまふことは津波や地震が起こるたびに報告されています。ところがインターネット回線を使うSNS(ソーシャルネットワークサービス)は目立った障害はなく通信はほぼ可能だったそうです。

スマホの災害時の役立て方は数えればきりがありませんがその中の特に役立つであろう「LINE」についてお話します。

I. 「LINE」って何ですか

スマホに搭載されている機能(アプリ)の一つです。スマホならそのアプリをすぐに入手することができます。

II. 「LINE」でできること

1. メッセージを送れる 相手が読んだかどうかすぐわかる

「LINE」は個人別、家族などのグループ別の人にメッセージを送ることができます。そしてメッセージを相手が読んだか否かは、相手が自分のメッセージを開いたとき瞬時に「既読」のマークが届き安心です。

熊本地震では大切な人に安否確認のメッセージ「地震あったけれど大丈夫？」と送ったところ返事はなかったが「既読」のしるしが付いたので安全が確認できたと話す人がいました。

2. メッセージの書き方

文字入力苦手な人でもスマホに向かってしゃべるだけで文字化して文章にしてくれる機能がついています。



3. 無料電話機能が「LINE」にある。ビデオ通話も無料

災害時につながりにくい電話も「LINE」を使っての電話は特に問題なくつながるようです。またビデオ通話もできるので元気な顔や周りの状況を知人に見せることができます。

4. 災害のニュースを知りたい

災害時の外のことが気になりますよね。災害時停電でTVもラジオも聞けない時スマホでラジオもTVも見ることができます。

5. 自分の居場所を知りたい、知らせたい

「災害時買い物に出ていたが自分がどこにいるのか」また「家族にどこにいるのか知らせたい」そんなときもボタンひとつで相手に詳細な地図を送れば自分の居場所がわかるようになっています。

6. 家族それぞれ今どこにいるの

家族、仲間が今どこにいるか一度に知るためにはリアルタイム位置情報共有サービス「LINE HERE」に登録しておけばグループで共有できます。

7. 停電すればスマホ使えなくなってしまう

スマホは内蔵されているバッテリーや使い方によってどのくらい持つかわかってきますがふつうの使い方充電なしで2日間くらいでしょう。災害時停電しているときではどうすれば充電できるか、その方法を防災ボランティア「情報通信電気チーム」が車のバッテリーの使用で電気を取る方法を紹介しています。

また携帯充電器も普及しておりスマホを愛用している方はほとんどそれを持っているでしょう。

スマホには「LINE」以外にも「地震警報」として地震が起きたときいち早く警報が鳴りますし普段の生活において「明日の天気は?」「PCに mail 来てない?」など数知れずの機能があり頭脳をひとつ持ち歩いているような気持ちになります。言葉や物の名前がすぐに出てこない私なんかいろんな意味でスマホが頼りです。

ぜひ皆さんもスマホを手に入れてください。

防災部・防災VGの今後の活動予定

次回「防災だより」14号 : 11月15日予定

- 毎月開催:防災会議、防災ボランティア役員会
- 地域防災拠点訓練:12月3日(土) 釜利谷西小:夏山・山の手 合同
- 関ヶ谷地区防災訓練(自治会):9月10日(土)10時、今年は防災VGの独自の行動はありません。班長宅に集まり、班内の安否確認を実施。
今年の防災VGによる要援護者宅安否確認・訪問は5・6月に民生委員とグループリーダーで実施、その後 担当者毎(複数)に順次訪問予定。
- 食料物資チーム:8月25日(木)非常食調理デモ(第2回青少年部)

- 防火チーム:スタンドパイプ訓練、火事を出さない為の感震ブレーカー普及の検討:9~11月
- 防災資機材チーム:防災資機材の棚卸し結果の集計:8~9月
- 情報通信電気チーム:9月末会議:車から発電:インバーターのデモ・普及、タブレットやスマホの活用啓発等
- 医療介護チーム:9月24日・11月26日:勉強会・打ち合わせ

